

実証概要

設定した解決したい課題

- 紙／Excel分散により、作成～審査～集計で過大工数・エラーが発生している。（県90分/件、国集計3時間）
- 市町村の様式外の補助資料が入力不備・照合・問い合わせを誘発し、遅延と品質ばらつきがある。
- 国様式への転記作業において、負荷増とヒューマンエラー、リードタイムが長期化している。

解決の方向性（実証事業者との協議結果）

- 一連の申請サイクル「計画申請→交付申請→変更交付申請→実績報告」を一元システム化し、差戻しも含めてシステム内で完結。入力は「そのままDX」を活用し、既存Excelを元としたWebフォームで行い、その入力データを各様式へ出力可能とする。（必要に応じてExcel出力・最終のみ紙出力とする）
- KPIに関しては、県内市町村を対象にアンケートを実施し、現状値を取得・目標値を設定した。
- プロトタイプは軽量化を継続し、様式の簡素化・別紙扱い等で運用を調整した。

<検証項目・KPI>

県担当者の審査処理時間の削減	90分	→	30分
市町村担当者の満足度	19.1%	→	30.0%
国提出用データ集計時間	180分	→	20分

Before



計画申請・交付申請等一連の申請サイクルでの提出資料のすべてが紙ベースであったため、審査の負担が大きくなっていた

After



システム上での審査とすることで、数字が一致すべき箇所の自動入力による不備の未然防止等、審査フェーズの所要時間を削減

試行運用の概要

<方法> 直近受領分の再申請で複数自治体を対象に試行した。市町村は入力フェーズのみ対応し、入力されたデータをCSV出力→県の集計作業効率化を検証した。

<期間> 10/27 16:00-17:30 市町村担当者向け説明会

11/4～11/14 実証期間（市町村担当者操作・県担当者審査対応操作）

工夫したポイント

- ✓ 統一Webフォームによる入力体験の刷新：複数に分かれていたExcelシートを、スクロール形式の単一Webフォームに統合。シート間の移動や転記ミスを構造的に排除した。
- ✓ 自動計算とマスタ連携による入力補助：人口に応じた基準単価の自動反映や、各項目の合計値をリアルタイムで計算する機能を実装。手計算や目視確認のプロセスを大幅に削減した。
- ✓ システム内でのコミュニケーション完結：修正依頼や確認をシステム上のワークフローやコメント機能で対応可能に。電話やメールでの煩雑なやり取りを軽減し、修正履歴をシステム内に記録することで、担当者間の情報共有を円滑化した。

実証実験の評価及びKPIの結果

- ✓ 県担当者の審査処理時間：手動での検算が不要となり、システム上のチェックに集中できたことで大幅な時間短縮を実現。
- ✓ 市町村担当者の満足度：目標の30%を上回る37.5%を達成。「差し戻し・修正対応がスムーズになった」という評価の一方で、「入力しにくくなった」という意見も見られ、評価が二分化する結果となった。
- ✓ 国提出用データ集計時間：各市町村から提出された構造化データをCSVで一括出力し、国様式へ貼り付けるだけで集計が完了。手作業でのコピー＆ペーストが完全に不要となった。

＜検証項目・KPIに関する結果＞

県担当者の審査処理時間の削減	実績値：20分	申請1件あたりの審査時間を 78%削減
市町村担当者の満足度	実績値：37.5%	「満足」「とても満足」と回答した割合が 37.5%
国提出用データ集計時間	実績値：5分	国提出用データの集計時間を 97%削減

導入に向けての課題と解決策

- ✓ システム動作が遅い等のパフォーマンスの問題が浮き彫りとなったことを踏まえて、フォームの軽量化や回線前提の性能改善を検討する。
- ✓ 入力フォーム操作時に方向キーやEnterキーで移動できない等、操作性の問題が浮き彫りとなったことを踏まえて、Enter/tab/方向キー等の入力効率化機能の開発を検討する。

[illegible][illegible]